

男女がともに認めあい、支えあい、希望あふれる小城市をめざして

# 市長と語る “ゆるやかな” 男女共同参画

市では、地域における男女共同参画を推進するため、今年度から「男女共同参画推進員」を市長とともに、「男女共同参画」についての思いを語っていただきました。

## 男女共同参画推進員

市民の皆さんの男女共同参画に関する相談を受け、地域の意見等を市に提言していくことを主な役割としています。



森永都和子さん  
(芦刈町)

小柳義則さん  
(三日月町)

**市長**…私は「男女がそれぞれの個性と能力を発揮できる現代社会では、

**男女共同参画**という意識があたりまえなんだ。」という考えを地域や企業、また組織に理解していただかなければならないと思います。そういった意識づけをどれだけ推進し、環境をつくっていくかが重要です。子どもたちは「男女共同参画なんてあたりまえのことだ」という意識かもしれないが、私たち世代は特に育った時代がゆえに、より認識をしていかなければならぬと思います。

### “まずは夫婦・家族から”

**小柳**…さくらプラン※1ができて3年が経過しますが、男女共同参画行政の現状と今後の市の方向性について市長に伺います。

※1さくらプラン  
小城市男女共同参画プランの愛称。平成19年3月策定。小城市としてすすめるべき男女共同参画行政についてまとめられています。



**市長**…地域社会の中での推進が重要だと思っています。私自身、男女共同参画はまず夫婦・家族がベースになると思います。

お互いに支えあい、思いやる気持ち、夫婦から家族へ、更に地域から社会へとつながっていけば、男女共同参画社会が実現するのではないのでしょうか。

人の意識は急には変わらないので、まずは一步一步確実に進めてゆかなければなりませんね。

**森永**…市長が言われるとおり私も男女共同参画の基本は夫婦・家庭ではないかと感じます。私たち団塊の世代では、今まで培ってきたものが大きくて、どうしても性別役割分業※2の意識から抜けられないでいます。自分自身もそれを当然だと思っていたふしがあって、女性自身もいけなかったのでは、なども考えますと…やはり妻育て、夫育てが必要だと思っています。

でも最近の若い世代は自然に家事参画ができていくように感じますよ。そのようなことを見るとひょっとしたら近い将来男女共同参画社会の達成ができるのではと思ったりしますが…。

たしかに地域、区の総会などに出席しますとやはり女性は少ないですね…。地域に入ったら男女共同参画はまだまだだと実感します。

※2 性別役割分業  
性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。「男は仕事・女は家庭」などは固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。

## “女性の意見を市政に!!”

**古賀**：私は推薦をうけて、農業委員をやっております。他市町に比べ小城市は女性農業委員の数が多いため、胸をはって活動をやっていきます。しかし、農業人口の6割は女性と言われているので、まだまだ少ないと言わざるをえません。もう少し女性委員を増やして農村の活性化につなげていきたいと思っています。



**市長**：市役所内においても今後は女性の登用が増えることと思います。

また、市民の皆さんの意見を聞く審議会の女性委員登用率は30%を目標にしていますが、現在は24・8%。もっともっと女性の声が必要ですね。

女性委員の審議会への候補者を推薦するための「女性人材バンク」※3もありますので女性の皆さん、遠慮しないで！

### ※3 「女性人材バンク」

市の施策決定の場に女性の声を反映させるため、各種審議委員会などの委員を選考する際に、女性委員の候補者として推薦させていただくため企画課で集約している人材リストのことです。随時登録者を募集しています。

## “思いやりから始める”

**半田**：家庭の意識についてですが、定年後の夫婦は大変だ、とよく言われますが来年私の夫も定年なんです。私は色々な活動をしているので、家にあまりいない。そうすると「僕の昼ごはんはどうしよう?」と今から心配しています。私は「どうするの?」と。今後、家庭内の話し合いがもっと必要になってくるでしょう。

ね。家事参画についても、夫婦2人の思いやりのうえで「相手が疲れていたらやる」とかですね。夫婦の間での男女共同参画、特に団塊の世代からの男女共同参画が私を含めた全体の課題ではと思います。

## “自分の人生をどう生きるか”

**田中**：男女共同参画という文字が堅いなあと。行政がつくった用語だからかな。そのために、男性の意識がなかなか変わらないのかなと。それよりも今は、「ワーク・ライフ・バランス」※4 という言葉がとっつきやすくいいかなと思います。それぞれの自分の人生をどう生きていくかということですね。団塊の世代の方、奥さんが先に逝ったらどうしますか。その時になって家事するのは大変難しい。だから前もってチャレンジしてみることが大事だと思います。また若い方は、仕事と生活の調和をどうするか?このように厳しい社会状況だからこそあらためて考える必要があるんじゃないかと思えます。

## 男女共同参画推進員



やすのり  
田中康教さん  
(三日月町)



さちこ  
半田幸子さん  
(小城町)



ひろみ  
古賀広美さん  
(声刈町)

# 市長と語る“ゆるやかな”男女共同参画

※4 ワーク・ライフ・バランス  
「仕事と生活の調和」と訳され、仕事と生活をどちらもバランスよく実現できる状態のこと。子育てや介護、地域生活など仕事以外の生活の時間を確保しながら効率よく仕事をすすめていこうとする取り組みのことです。

**田中**…まちづくり、健康と福祉の面から私は公民館を活用することがコミュニティの活性化につながると思うんですよ。公民館を拠点にお年寄りと子育て世代またさまざまな世代が集えるような拠点をつくる。そうすればDV（ドメスティック・バイオレンス）※5の問題などもなくなるのではないかと思いますね。

※5 DV  
（ドメスティック・バイオレンス）  
配偶者間・内縁関係における暴力。

## “支え合う”そこから始まる

**市長**…男女共同参画は、あまり難しく考えると幅がひろいので、まずは身近なところからすすめていきたいと思います。

私がよく言うのが、“人”という字です。夫婦認めあって支えあう。ど

ちらも元気で支えあう。お互いの立場を尊重しあいながら助け合っていくことがまず第一歩なのではないかと思っています。

男女共同参画は、今日お話してもさまざまな分野に広がっていく問題で、だからこそ家庭で地域での理解がまずは必要なのではと感じます。

推進員の皆様どうぞ男女共同参画の推進についてご協力をよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。



男女共同参画

内閣府男女共同参画シンボルマーク  
男女が手をとりあっているようすをモチーフにし、互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いをこめています。



※懇談会の様子（全体）は、市HPに掲載しています。男女共同参画で検索してください。

男女共同参画に対する相談は、推進員と企画課市民協働推進係でお受けします。また、各関係機関への相談が必要な場合は、専門の窓口へおつながります。（推進員への連絡を希望される方は、左記までお問合せください。）

【問合せ】企画課 市民協働推進係

（牛津庁舎）熊谷・山下

☎63-8803